

高退協ニュース

高知高退協
事務局
2006.5.15
No.140

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内2丁目1-10
TEL 088-1822-116822
0165012111893
郵便振替口座 780-0850

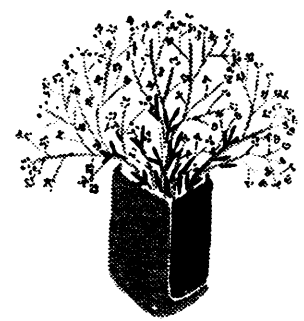


77回
メーデー
スローガン

憲法改悪を許さず、働くもの
の団結で生活と権利を守り、
平和と民主主義、中立の日本
をめざそう

第七十七回メーデー

メーデーは、中央公園で午前九時から開かれました。参加者は二十三産別、十二団体から九百五十人(高退協からは二十四名が参加)。県労連高橋豊房委員長は、「憲法、教育基本法改悪阻止の闘いを草の根で起こそう」と、呼びかけました。また、高退協の正岡光雄障高連会長は、障害者自立法が障害者の生活と自立をますます厳しいものになっている実態を具体的に訴えました。メーデー宣言採択後、参加者は団結ガンパローとともに、デモ行進を行いました(報告:小澤)



2006 新役員紹介

- 会長 和田 幸次郎
- 副会長 小澤 幸次郎
- 事務局長 原 敬
- 常任委員 坂本 敬、上岡 積、西田 令子、林 忠子、小島 真子、渡辺 正子、三谷 隆彦、田所 昌澄、河村 幸恵、中村 正博、樋口 勇彦

- 監査委員 山脇 正照、千葉 繁之
- 顧問 岡崎 清恵、浜田 昌俊
- 役選委員 南 千加良、加藤 伸一、鎌田 伸一

中川 正路

退職の年に高退協事務局入りして10年、一つの節目と考えて役員を退任させてもらうことになりました。

学習講座や親睦旅行、芸能望年会などを通じて、いろいろな学びまた楽しい思い出をつくることができ、意義深い10年でした。会員の皆さんに厚くお礼を申し上げます。皆さん方のご健勝とご多幸をお祈りして、退任の言葉とします。

教育基本法改悪反対集会

4月28日(金)教育基本法改悪案が国会に上程されました。教職員5団体(県教組、高教組、県退教、高退協、退婦教)が、高知市役所前で「教育基本法『改悪』法案の国会提出に断固反対する緊急集会」を開きました。約100人の参加者を前にして、宮地県教組委員長は「教育基本法は憲法9条の改悪と一体のものであり、政府言いなりの教育を目指すものである。成立阻止のため頑張ろう」と挨拶しました。各団体から「子どもの未来のために改悪を許してはならない」と決意表明を行いました。高退協からは7名参加、原淳事務局長が「教育の場で今起きている様々な問題、不登校、いじめ、少年による凶悪犯罪等に対して何ら解決の方策を示さず『愛国心』を持ち出し戦争できる国、子ども達を戦争に送るための教育に改め、その後憲法を改悪するために一直線に進もうとしています。国会に提出されましたが、私たちの先輩方が命をかけて対した勤労闘争を思い起こし、教職員、保護者、県民、国民一体となって阻止に向けて大きな運動を起こしていきましよう」と決意を述べました。

活動日誌

(原 淳)

- 【4月】
 - 2日 教育基本法の改悪を許さない県民大集会
 - 5日 上田栄蔵さん葬儀 議案発送
 - 15日 プルサーマル学習会
 - 22日 総会・退職者励ます会
 - 28日 メーデー準備 教育基本法「改正」 反対緊急高知市集会
- 【5月】
 - 1日 メーデー
 - 3日 輝け憲法・県民のつどい
 - 11、13日 革新懇文化祭
 - 15日 第1回事務局会

草声老語

安芸市の知的障害者共同作業所「ホップあき」に通信が始めて六年目になった。行革の波は、ホップにも荒波で入って来た。今までも無認可作業所だったので、通所生十八名は、養護学校卒業後、家族のもとから通って働き、収入は一カ月三千円程度である。今年から政府の示す自立支援法に沿い、NPO法人化を準備中である。

指導員二人で重度の障害を持つ通所生に手を尽くす仕事は無理難題である。見かねた母親たち四人が我が子とともに働き、ボランティア活動をjして、やっとこのホップの仕事場だが、通所生たちは人々に支えられて人間らしく働く喜びを味わうことができています。二十代が十六名と若々しい職場。みんな個性豊かに働き、週一回の表現活動の日には彼らの最良の日で、年二回催す舞台ですばらしい才能を発揮する。彼らの感性を是非ご鑑賞をと呼びかけたい。作業所を設立させた母親達は、学校卒業後の我が子が家族とともに暮らしながら働く理想の場を求めて闘い、立ち上げた。立派な母親運動である。能力に合わせた働いても僅かな収入にしかならないが、力を合わせて働く喜びを生きる「ホップあき」に豊かな愛情と力をください。人間みな「平等」。障害を持つ子どもが成人して働く場所をと願う親の気持ちをお考え、行政も私たちも「ホップあき」が「幸せな働く場所」として栄えていくよう、協力を惜しんではいけません。障害を持ってでも平等に生きる権利を行使できる理想の場にした。山本 景子

秦泉寺残日録

坪井 幹之

「鉄塔めぐり」その後

以前に紹介した「鉄塔めぐり」であるが、一応、わがエリア内のコースを経験した。遠くまで足を伸ばすと、交通の便がないので帰りが大変である。以下に前に紹介したコース以外を列記する。円行寺口―鶴の森―鳥越。宗安寺―城ヶ森―領家。宗安寺―朝倉―こう内。筆山―鷲尾山―柏尾山。筆山―中山―宇津野山。重倉―白木谷―久礼野。重倉―七ツ淵―網川越―柴巻。：などである。宗安寺にある「高知変電所」が各送電線の要になっている。これからも新しい路線を開拓しようと思っているが、最近、上記のコースから派生している「道なきみち」の探検(?)に興味移っている。その契機となったのは三谷の影山山頂に立つ一九号鉄塔との出会いである。ここは作業道の行き詰まりで、次の鉄塔へは道を西へ引き返すことになる。ところが、この山頂から周囲を見回すと南に向かって尾根が派生している。道はないが歩いていけそうであった。後日地図で調べてみると、この影山から仏掌山、小池山と車谷の右岸に沿って雑木と椋林の山が続いている。ある日、思い切って稜線を辿ってみた。道はないが、「けものみち」か「杣みち」か知らないが、結構歩けた。しかし、秦泉寺の里近くになって雑木と竹林の密生に阻まれた。車道がすぐ下に見えるが崖がものすごい。悪戦苦闘の末やっとの思いで下山した。「よし、このルートを開こう」とその後、何回か挑戦した。結局、古い墓地づたいに尾根まで登り、疎林の中をくぐって主稜線に達するコースを見つけた。何回も登り下りを経験、やっとルートが確定できるようになった。これが病み付きにな

って、いくつかの道筋に挑戦中である。

エイチャンの思い出

四月、上田栄蔵さんが亡くなった。ボルシエビキ「エイチャン」の死である。上田さんの輝く闘歴については、みなさんご周知の通りであるので、個人的な思い出を書いて哀悼の意を表わす。エイチャンとの出会いは高知工業定時制で、戦後直後のこと。レックドパージで東京を追われていた上田さんを教職につけたのは旧制高校の先輩東元善次郎先生の反力によると聞いている。上田さんは闘士であったが趣味も広かった。マージャンも得意で職場の青年部の中心になっていた。また、職場の仲間と山行もともにした。ある夏こと、九州の久住山に出掛けた。山麓の温泉場にある保養所に泊まったが、九大出身の上田さんの斡旋による素朴な温泉で浩然の気を養うことができた。別の年、四国山系からの帰りで、桑瀬峠から当時のバスの発着地高蔵まで降りたときのことである。相当の距離を残しているのに陽は傾いてきた。もう一泊という空気が支配的になったが、エイチャンの足は早く、形相もきびしい。どうしてもこの日のうちに愛妻のもとに帰ると云う決意に満ちていた。一行はひこずられるように山道を。かされた。今でも夢にみる貴重な思い出である。

選挙にまつわる話が多いが、最も印象に残っているのは、山原さんが始めて無所属で国政選挙に出馬したときのことである。例によって前髪をみながら手伝いを頼まれた。屋間の授業をすませて二月ほど「選挙事務所」に通った。後年高知市議会議長を勤めた大先輩から「わしらはジャコよ、ジャコよね」と言われながら雑務に精を出した。貴重な思い出である。

エイチャンとの付合は数知れない思い出に満ち溢れている。いつの日か宇宙のどこかで出会うであろう。

さようなら

短歌

「希望を語って闘って―叶岡哲さんの歩いた道」を読んで
山本晶子

ひたむきに生き来し人の足跡を
読みつつ吾も清められゆく

まさし種遠近に育ち生活者の
となりて今を生きゆく

青年のようなる面影とどめつつハ
ーモニカ吹きし人を忘れず

昭和廿九年卒「城山高同窓会」に
呼ばれ道頓堀へ
榊原忠彦

すれちがふ車窓いづこも桜満開
卯月六日の土讃沿線
榊原忠彦

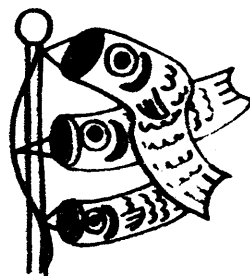
咸臨丸けふも水脈ひき回り航く
春陽輝けき瀬戸の渡りに
榊原忠彦

青若の水掛不動に水やれば
「織田作」頭らぬ「夫婦善哉」
榊原忠彦

四月の街にて
叶岡淑子

父子ならん寄り添い行く子のラン
ドセル上下にスキップ四月の街に
交差点を隔てて手を振るいつまで
も少年ふたり夕陽を浴びて

街路樹のレッドロビンの朱のよう
に輝きて行け四月の子等よ



訃報

上田栄蔵さんが4月3日逝去
されました。

慎んでご冥福をお祈りします。

退職者を励ます会

4月22日、高教組主催で、新加入を祝い、退職者を励ます会が高知城ホールで開かれた。

例年通り新組合員と新高退協会員の皆さんが晴れやかな顔で壇上に並んだ。

それぞれの決意、現職時代の活動の思い出などに心を打たれて聴きながら、「退職してもうずいぶなつなあ」と自分の来し方を思った。

異色だったのは、北高を退職なさった島本さんが、バイオリンの弾き語りで、思い出を語られたこと。ユ―モアたっぷり会場が沸いた。

久しぶりに会う顔々々、和気藹々酒を汲みかわし、おいしいものをつつきながらの歓談が閉会まで続き、最後は「緑の山河」の合唱で終わった。(小島)



俳句

4月1日(土)

長浜「泥んこ祭り」

中内英明
早乙女が主役泥んこ祭りとか

つばくらめ神田の泥を掠めけり

中内みち代
早苗束縁に神田の整ふる

お当屋は門前中組春祭り

小笠原さちを
満開の花に泥んこ祭りかな

腰巻をからげ早乙女まぶしけれ